

《担当者名》真島 理恵 (rmashima@hoku-iryo-u.ac.jp)

【概要】

人間は社会的動物である。集団内での人々の相互作用が社会を生みだし、また一方、人間の社会的判断・行動の性質は社会を適応環境として、他者との相互作用の中でうまく機能するかたちで獲得されてきたと考えられている。この講義では、人間の備える社会的認知や判断、行動の性質について学び、人間行動や社会現象を科学的視点から捉えることができるようになることを目的とする。

【学修目標】

対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程を説明できる。
 人の態度及び行動についてさまざまな理論を用いて説明できる。
 集団及び文化が個人に及ぼす影響について概説できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	社会心理学とは 対人魅力(1)	社会心理学の研究領域と目的について理解する。異性に対して感じる魅力の形成要因について理解する。	真島 理恵
2	対人魅力(2)	異性に対して感じる魅力の形成要因(続き)、愛情の機能について理解する。	真島 理恵
3	対人魅力(3)	一般的な対人魅力の形成要因について理解する。	真島 理恵
4	社会的認知(1)	印象形成のメカニズムとバイアスについて理解する。	真島 理恵
5	社会的認知(2)	ステレオタイプの影響と対人行動について理解する。	真島 理恵
6	社会的推論	原因帰属の種類とバイアスについて理解する。	真島 理恵
7	自己	自己にかかわる心理メカニズムについて理解する。	真島 理恵
8	集団	集団所属性が認知・行動に与える影響や集団内過程・集団間葛藤について理解する。	真島 理恵
9	文化(1)	心の文化差とその基盤について理解する。	真島 理恵
10	文化(1)	心の文化差とその基盤について理解する(続き)。	真島 理恵
11	社会的影響過程(1)	他者の存在が個人に与える影響について理解する。	真島 理恵
12	社会的影響過程(2)	他者の存在が個人に与える影響について理解する(続き)。	真島 理恵
13	社会的影響過程(3)	社会的相互作用がもたらす相互影響過程について理解する。	真島 理恵
14	態度変容(1)	合理化による態度変容の理論について理解する。	真島 理恵
15	態度変容(2)	態度変容をもたらすメカニズム、および説得テクニックについて理解する。	真島 理恵

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用
授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

試験によって評価する。授業の妨げとなる受講態度は減点対象とする。

【教科書】

なし。資料を配布する。

【参考書】

亀田達也・村田光二 複雑さに挑む社会心理学: 適応エージェントとしての人間 改訂版 有斐閣 (2010)
 北村英哉・大坪庸介 進化と感情から解き明かす社会心理学 有斐閣 (2012)
 岡本浩一 社会心理学ショート・ショート: 実験でとく心の謎 新曜社 (1986)
 山岸俊男(監修) 徹底図解 社会心理学 歴史に残る心理学実験から現代の学際的研究まで 新星出版社 (2011)

【備考】

各回の授業の実施方法は実施前に周知する（状況や必要性に応じ、面接授業のみ、遠隔授業のみの実施とする可能性があり得る）。

すべての回に出席することを前提に講義を進める。授業を欠席した場合には、各自の責任において、Classroomを通じた配布資料の入手等、必要な対応をとること。

この講義は心理科学部臨床心理学科の研究協力者プール・クレジットシステムを使用するため、様々な研究への参加・協力に応じて、5%を上限として最終評価への加点が行われる可能性がある（詳細については初回講義にて説明）。

< ICTの活用 >

Google Classroomを利用して授業資料の配付や諸連絡を行う。受講可能性が少しでもある学生は、初回前に本科目のClassroomに登録しておくこと（履修をとりやめた場合は後で削除可能）。

Google Formsを活用し、授業についての質問や感想を収集する。随時、Classroomでフィードバックを行う。

Google Formsを使用した理解度の確認を行う。

実施内容に応じて、Google Classroomを利用したオンデマンド型授業を適宜行う可能性がある。

【学修の準備】

授業前に前回の講義資料を精読し、内容を十分に理解しておくこと。(80分)

授業終了後、講義資料及びノートを見直し、学習内容を整理し理解を深めること。「資料を見ずに内容を他者に説明できる」ことを目標に復習を繰り返すこと。(80分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

心の問題にかかわる職業人として必要な幅広い教養と専門的知識を修得するという、心理科学部のディプロマ・ポリシーに適合している。